

授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅡ	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験			実務経験:
開講時期	前期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	就職年次生としての自覚を持たせる。 面接での自己プレゼン力を高めることを目標とする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	無し		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	目標設定	2年次の目標設定
	2	就職するにあたって・バスハイク研修について	専門学校での就職活動ルールについてバスハイク研修についての事前準備
	3	バスハイクの振り返り①	Jプレゼンスでの研修内容を壁新聞にまとめる
	4	バスハイクの振り返り②	Jプレゼンスでの研修内容を壁新聞にまとめる
	5	就活スケジュール作成	今後の就職活動に向け、スケジュールを立てる
	6	自己PR作成①	自己PRの作成
	7	履歴書作成①	履歴書の下書き
	8	履歴書作成②	履歴書の下書き
	9	添え状・お礼状の書き方	添え状・お礼状について
	10	添え状・お礼状の書き方	添え状・お礼状について
	11	封筒の書き方と電話応対	封筒の書き方と就職活動における電話応対
	12	各自就活作業	各自就活作業
	13	各自就活作業	各自就活作業
	14	各自就活作業	各自就活作業
	15	各自就活作業	各自就活作業
	16	総合復習・期末テスト	期末テスト
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅱ	指導担当者名	佐久間春奈
実務経験			実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	18時間	週時間数	2時間
学習到達目標	履歴書作成や面接練習を行い、準備をする。 また、社会人としての心構えを持たせる。 11月末の海外研修に合わせて事前準備も行う。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	なし		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20	就職活動について	各自就活作業、社会人としての心構え動機づけ
	21	就職活動について	各自就活作業、社会人としての心構え動機づけ
	22	就職活動について	各自就活作業、社会人としての心構え動機づけ
	23	就職活動について	各自就活作業、社会人としての心構え動機づけ
	24	就職活動について	各自就活作業、社会人としての心構え動機づけ
	25	海外研修について	海外研修準備
	26	海外研修について	海外研修準備
	27	海外研修について	海外研修準備
	28	期末試験	期末試験
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	薬学A①	指導担当者名	現役薬剤師数名
実務経験	市内薬局の薬剤師として業務に従事中		実務経験： 有
開講時期	前期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義：○	演習：	実習： 実技：
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	大衆薬の知識を身に付け、薬学検定試験3級(6月2日)取得と登録販売者試験合格を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	登録販売者用テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	かぜ薬胃腸薬	テキスト解説(クオール様授業)
	2	かぜ薬胃腸薬	テキスト解説(クオール様授業)
	3	かぜ薬胃腸薬	テキスト解説(クオール様授業)
	4	下痢止め薬整腸薬便秘治療薬	テキスト解説(クオール様授業)
	5	下痢止め薬整腸薬便秘治療薬	テキスト解説(クオール様授業)
	6	下痢止め薬整腸薬便秘治療薬	テキスト解説(クオール様授業)
	7	登販向け授業	テキスト解説(クオール様授業)
	8	登販向け授業	テキスト解説(クオール様授業)
	9	登販向け授業	テキスト解説(クオール様授業)
	10	登販向け授業	テキスト解説(クオール様授業)
	11	登販向け授業	テキスト解説(クオール様授業)
	12	登販向け授業	テキスト解説(クオール様授業)
	13	登販向け授業	テキスト解説(クオール様授業)
	14	登販向け授業	テキスト解説(クオール様授業)
	15	登販向け授業	テキスト解説(クオール様授業)
	16	期末試験	期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 薬学A②と合わせて単位付与とする。			

授業計画(シラバス)

科目名	薬学A②	指導担当者名	岩田教一
実務経験	郡山市内の病院・調剤薬局にて調剤業務に計26年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	30時間	週時間数	3時間
学習到達目標	薬学の基礎(薬とは何かから、作用・服用方法など)の知識を身につけ、薬学検定試験3級薬学検定試験3級(6月2日)全員合格を目指す。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	薬学検定試験対策&過去問3級、4級テキスト PC オリジナル資料(講師準備)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	薬学とは何かを解説する、(薬学概論)教科書 1	薬学概論 第1章~3章 (吸収、分布、代謝、排泄)
	2	教科書 第2部	生活習慣病 栄養素 サプリメント アレルギー
	3	教科書 第3部 ①	鎮咳薬 解熱鎮痛薬 (前半復習)
	4	教科書 第3部 ②	鼻炎 目薬 乗物酔い 肩こり 外用皮膚炎 水虫 便秘 痔
	5	教科書 総復習	苦手な分野の確認 見直し 復習
	6	薬学検定3級模擬試験	教科書巻末の問題を中心に模擬試験
	7	登録販売者向け授業①	登録販売者試験合格テキスト オリジナル資料(講師準備)
	8	登録販売者向け授業②	登録販売者試験合格テキスト オリジナル資料(講師準備)
	9	登録販売者向け授業③	登録販売者試験合格テキスト オリジナル資料(講師準備)
	10	期末試験	薬学A②期末試験 修了後 登録販売者向け授業再開
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 薬学A①と合わせて単位付与とする。			

授業計画(シラバス)

科目名	薬学B	指導担当者名	現役薬剤師数名
実務経験	市内薬局の薬剤師として業務に従事中		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	18時間	週時間数	2時間
学習到達目標	登録販売者としてのスキル向上を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	登録販売者合格テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20	総復習	登録販売者試験の振り返りや実務において必要な知識等 (クオール薬局様の授業計画により)
	21	総復習	登録販売者試験の振り返りや実務において必要な知識等 (クオール薬局様の授業計画により)
	22	総復習	登録販売者試験の振り返りや実務において必要な知識等 (クオール薬局様の授業計画により)
	23	総復習	登録販売者試験の振り返りや実務において必要な知識等 (クオール薬局様の授業計画により)
	24	総復習	登録販売者試験の振り返りや実務において必要な知識等 (クオール薬局様の授業計画により)
	25	総復習	登録販売者試験の振り返りや実務において必要な知識等 (クオール薬局様の授業計画により)
	26	総復習	登録販売者試験の振り返りや実務において必要な知識等 (クオール薬局様の授業計画により)
	27	総復習	登録販売者試験の振り返りや実務において必要な知識等 (クオール薬局様の授業計画により)
	28	期末試験	テキストから出題
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	薬学演習①	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	48時間	週時間数	2時間
学習到達目標	大衆薬の知識を身に付け、薬学検定試験3級(6月2日)取得と登録販売者試験合格を目指す。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	薬学検定試験B分野・C分野、薬学検定試験過去問題集3級4級、登録販売者用テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	薬学検定対策	薬学Aで学んだ内容をまとめる小テストをこまめに行い、該当問題を解く
	2	薬学検定対策	薬学Aで学んだ内容をまとめる小テストをこまめに行い、該当問題を解く
	3	薬学検定対策	薬学Aで学んだ内容をまとめる小テストをこまめに行い、該当問題を解く
	4	薬学検定対策	過去問題を使用し演習
	5	薬学検定対策	過去問題を使用し演習
	6	薬学検定対策	過去問題を使用し演習
	7	登録販売者試験対策	薬学Aで学んだ内容をまとめる小テストをこまめに行い、該当問題を解く
	8	登録販売者試験対策	薬学Aで学んだ内容をまとめる小テストをこまめに行い、該当問題を解く
	9	登録販売者試験対策	薬学Aで学んだ内容をまとめる小テストをこまめに行い、該当問題を解く
	10	登録販売者試験対策	薬学Aで学んだ内容をまとめる小テストをこまめに行い、該当問題を解く
	11	登録販売者試験対策	薬学Aで学んだ内容をまとめる小テストをこまめに行い、該当問題を解く
	12	登録販売者試験対策	過去問題を使用し演習
	13	登録販売者試験対策	過去問題を使用し演習
	14	登録販売者試験対策	過去問題を使用し演習
	15	登録販売者試験対策	過去問題を使用し演習
	16	期末試験	期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	薬学演習②	指導担当者名	岩田教一
実務経験	郡山市内の病院・調剤薬局にて調剤業務に計26年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	80時間	週時間数	8時間
学習到達目標	薬学検定試験3級(6月2日受験予定)を目標に学習。 さらに8月の登録販売者試験合格に向け準備する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	薬学検定試験対策&過去問教科書 検定試験過去問題集(講師準備)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	薬学検定概論	教科書、オリジナル資料(講師準備)
	2	薬学検定過去問	3級の過去問を説いて、出題傾向を知る
	3	薬学検定過去問	3級の過去問を説いて、出題傾向を知る
	4	薬学検定過去問	3級の過去問を説いて、出題傾向を知る
	5	薬学検定過去問	3級の過去問を説いて、出題傾向を知る
	6	薬学検定過去問	3級の過去問を説いて、出題傾向を知る
	7	登録販売者試験向け授業	各都道府県の過去問を説いて、出題傾向を知る。
	8	登録販売者試験向け授業	各都道府県の過去問を説いて、出題傾向を知る。
	9	登録販売者試験向け授業	各都道府県の過去問を説いて、出題傾向を知る。
	10	期末試験	薬学検定試験 期末試験(過去問から)
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	薬事関連法規	指導担当者名	
実務経験	薬局にて登録販売者として9年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	42時間	週時間数	2時間
学習到達目標	8月下旬に実施される、登録販売者試験に向け学習を進める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	登録販売者試験合格テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律の目的等	一般用医薬品の販売に関連する法令
	2	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律の目的等	一般用医薬品の販売に関連する法令
	3	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律の目的等	一般用医薬品の販売に関連する法令
	4	医薬品の分類・取り扱い等	医薬品の定義と範囲 一般用医薬品・要指導医薬品・医療用医薬品、毒薬・劇薬 一般用医薬品のリスク区分
	5	医薬品の分類・取り扱い等	容器・外箱等・添付文書への記載事項 医薬品と医薬品部外品との違い、化粧品との違い 医薬品と健康機能食品等の食品との違い
	6	医薬品の分類・取り扱い等	医薬品販売の許可行為の範囲 リスク区分に応じた販売従事者等・情報提供
	7	医薬品の販売業の許可	医薬品等適正広告基準・不適切な販売 行政指導・処分
	8	医薬品販売に関する法令遵守	添付文書の読み方
	9	医薬品の適正使用情報	製品表示の読み方、安全性情報 購入者等に対する情報提供への活用
	10	医薬品の適正使用情報	副作用情報等の収集、評価及び措置 報告の仕方
	11	医薬品の安全対策	救済制度のしくみ 副作用事例とその対応
	12	医薬品の副作用等による健康被害の救済	
	13	医薬品に関する啓発活動	
	14	総合問題演習	
	15	総合問題演習	
	16	期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	医薬品概論	指導担当者名	
実務経験	薬局にて登録販売者として9年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	42時間	週時間数	2時間
学習到達目標	8月下旬に実施される、登録販売者試験に向け学習を進める。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	登録販売者試験合格テキスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	医薬品に共通する特性と基本的な知識医薬品概	医薬品の本質・医薬品のリスク評価
	2	医薬品に共通する特性と基本的な知識医薬品概	医薬品の本質・医薬品のリスク評価
	3	医薬品に共通する特性と基本的な知識医薬品概	医薬品の本質・医薬品のリスク評価
	4	医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因	副作用・相互作用・飲み合わせ医薬品の品質
	5	医薬品選択と受診勧奨	一般用医薬品の役割と目的販売コミュニケーション
	6	薬害の歴史	医薬品の副作用被害と対応
	7	人体の働きと医薬品人体の構造と医薬品	消化器系内臓器官
	8	人体の働きと医薬品人体の構造と医薬品	呼吸系内臓器官循環器内臓器官
	9	人体の働きと医薬品人体の構造と医薬品	泌尿器系内臓器官感覚器官
	10	人体の働きと医薬品人体の構造と医薬品	運動器官脳や神経系の働き
	11	薬が働くしくみ	消化器官吸収・粘膜、皮膚吸収代謝と排泄
	12	全身に現れる副作用	ショック(アナフィラキシー)肝機能障害等
	13	精神に現れる副作用	中枢神経への影響精神神経症状
	14	総合問題演習	
	15	総合問題演習	
	16	期末試験	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	登録販売者試験対策	指導担当者名	岩田教一
実務経験	郡山市内の病院・調剤薬局にて調剤業務に計26年間従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	90時間	週時間数	15時間
学習到達目標	福島県登録販売者試験(8月受験予定)に向け、集中授業を各都道府県の過去問を中心に行い、多くの合格者を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	登録販売者試験合格テキスト 各都道府県の過去問(講師準備)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11	登録販売者試験対策 集中授業開始	各都道府県の過去問を解いて、苦手分野をなくす。
	12	登録販売者試験対策 集中授業	各都道府県の過去問を解いて、苦手分野をなくす。
	13	登録販売者試験対策 集中授業	各都道府県の過去問を解いて、苦手分野をなくす。
	14	登録販売者試験対策 集中授業	各都道府県の過去問を解いて、苦手分野をなくす。
	15	登録販売者試験対策 集中授業	各都道府県の過去問を解いて、苦手分野をなくす。
	16	登録販売者試験対策 期末試験	各都道府県の過去問を解いて、登録販売者試験の集大成としての期末試験
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	調剤事務	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	40時間	週時間数	4時間
学習到達目標	処方せんの内容から調剤報酬を算定する専門性の高いスキルを身につけながら、調剤事務管理士技能認定試験(9月29日)取得を目指す。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	調剤薬局事務テキスト1～3、学習レポート、調剤事務試験問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 前期	1	医療保障制度	テキスト解説、演習、課題、確認テスト
	2	調剤報酬の算定	テキスト解説、演習、課題、確認テスト
	3	調剤報酬の算定	テキスト解説、演習、課題、確認テスト
	4	調剤報酬の算定	テキスト解説、演習、課題、確認テスト
	5	調剤報酬の算定	テキスト解説、演習、課題、確認テスト
	6	調剤報酬の算定	テキスト解説、演習、課題、確認テスト
	7	調剤報酬の算定	テキスト解説、演習、課題、確認テスト
	8	調剤報酬の算定	テキスト解説、演習、課題、確認テスト
	9	薬の基礎知識	テキスト解説、演習、課題、確認テスト
	10	期末試験	過去問題から出題
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	調剤レセプト実習	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	18時間	週時間数	3時間
学習到達目標	処方せんの内容から調剤報酬を算定する専門性の高いスキルを身につけながら、調剤事務管理士技能認定試験(9月29日)取得を目指す。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	調剤薬局事務テキスト1～3、学習レポート、調剤事務試験問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11	レセプト作成、演習	レセプト作成、解説、演習、課題、確認テスト
	12	レセプト作成、演習	レセプト作成、解説、演習、課題、確認テスト
	13	レセプト作成、演習	レセプト作成、解説、演習、課題、確認テスト
	14	レセプト作成、演習	レセプト作成、解説、演習、課題、確認テスト
	15	レセプト作成、演習	レセプト作成、解説、演習、課題、確認テスト
	16	期末試験	過去問題から出題
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	調剤事務管理士対策	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	97時間	週時間数	24時間
学習到達目標	処方せんの内容から調剤報酬を算定する専門性の高いスキルを身につけながら、調剤事務管理士技能認定試験(9月29日)取得を目指す。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	調剤薬局事務テキスト1～3、学習レポート、調剤事務試験問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期		試験対策	認定試験対策
	17	試験対策	認定試験対策
	18	試験対策	認定試験対策
	19	試験対策、期末試験	認定試験対策、過去問題から期末試験出題
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
30			
31			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	調剤報酬請求事務	指導担当者名	
実務経験	薬局にて登録販売者として9年間従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:○	演習:	実習: 実技:
時間数	18時間	週時間数	2時間
学習到達目標	調剤報酬に対する確に算定及び説明できるようにスキルを身につけながら調剤報酬請求事務専門士検定試験3級(12月第1週予定)取得を目指す。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	調剤報酬請求事務専門士テキスト、調剤報酬処方せん問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20	調剤報酬専門士について	試験の概要説明
	21	算定項目について	調剤基本料
	22	算定項目について	薬剤料・調剤料
	23	算定項目について	薬学管理料
	24	過去問題演習	過去問題演習
	25	過去問題演習	過去問題演習
	26	過去問題演習	過去問題演習
	27	過去問題演習	過去問題演習
	28	期末テスト	過去問題から出題
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	調剤報酬請求演習	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:	演習:○	実習: 実技:
時間数	72時間	週時間数	8時間
学習到達目標	調剤報酬に対する確に算定及び説明できるようにスキルを身につけながら調剤報酬請求事務専門士検定試験3級(12月第1週予定)取得を目指す。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	調剤報酬テキスト、調剤報酬処方せん問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後期	17		
	18		
	19		
	20	試験対策	テキストから、より詳しい加算を学ぶ
	21	試験対策	テキストから、より詳しい加算を学ぶ
	22	試験対策	テキストから、より詳しい加算を学ぶ
	23	試験対策	テキストから、より詳しい加算を学ぶ
	24	試験対策	過去問題演習
	25	試験対策	過去問題演習
	26	試験対策	過去問題演習
	27	試験対策	過去問題演習
	28	期末試験	過去問題から出題
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	調剤レセコン	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	34時間	週時間数	1時間
学習到達目標	処方箋から情報を読み取り、調剤レセプトコンピュータを使用して会計業務、レセプト作成ができるように学習を進める		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	調剤OXYRYⅢ「操作テキスト」、問題集		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11	インストール	インストール作業
	12	操作方法①	医療機関マスタ入力、患者情報入力
	13	操作方法②	各種算定方法説明
	14	操作方法③	各種算定方法説明
	15		
	16		
<p>履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</p>			

授業計画(シラバス)

科目名	調剤レセコン	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	1単位	週時間数	1時間
学習到達目標	処方箋から情報を読み取り、調剤レセプトコンピュータを使用して会計業務、レセプト作成ができるように学習を進める		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	調剤OXYⅢ「操作テキスト」、問題集		
授業外学習の方法	行った内容は復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	調剤報酬請求事務問題集	処方内容入力
	18	調剤報酬請求事務問題集	処方内容入力
	19	調剤報酬請求事務問題集	処方内容入力
	20	管理士問題入力	管理士問題を使用し、復習と入力
	21	管理士問題入力	管理士問題を使用し、復習と入力
	22	管理士問題入力	管理士問題を使用し、復習と入力
	23	総まとめ	管理士問題を使用し、復習と入力
	24	総まとめ	管理士問題を使用し、復習と入力
	25	総まとめ	管理士問題を使用し、復習と入力
	26	総まとめ	管理士問題を使用し、復習と入力
	27	総まとめ	管理士問題を使用し、復習と入力
	28	期末試験	期末試験
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	薬局実務実習		指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事			実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	調剤ビジネス科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	45時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	実務に出てからも活かせる知識として、ロールプレイングを取り入れながら患者接遇の意識向上を図っていく。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	患者接遇マナー基本テキスト、その他			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	患者接遇	受付対応	
	2	患者接遇	受付対応	
	3	患者接遇	電話対応	
	4	患者接遇	電話対応	
	5	患者接遇	クレーム対応	
	6	患者接遇	クレーム対応	
	7	患者接遇	受付～会計までの流れについて	
	8	患者接遇	受付～会計までの流れについて	
	9	患者接遇	パターン別患者対応	
	10	患者接遇	パターン別患者対応	
	11	調剤助手について	調剤棚を使いピッキング練習	
	12	調剤助手について	調剤棚を使いピッキング練習	
	13	調剤助手について	薬袋作成	
	14	調剤助手について		
	15			
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない				

授業計画(シラバス)

科目名	薬局実務実習	指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験	薬局にて2年1ヶ月調剤事務に従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	調剤ビジネス科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:○ 実技:
時間数	1単位	週時間数	1時間
学習到達目標	実務に出てからも活かせる知識として、ロールプレイングを取り入れながら患者接遇の意識向上を図っていく。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	患者接遇マナー基本テキスト、その他		
授業外学習の方法	行った内容は復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画 後 期	17	患者接遇	各種保険についての説明の仕方
	18	患者接遇	各種保険についての説明の仕方
	19	患者接遇	各種保険についての説明の仕方
	20	患者接遇	各種保険についての説明の仕方
	21	患者接遇	各種保険についての説明の仕方
	22	患者接遇	各種保険についての説明の仕方
	23	患者接遇	各種保険についての説明の仕方
	24	患者接遇	総まとめロールプレイング
	25	患者接遇	総まとめロールプレイング
	26	患者接遇	総まとめロールプレイング
	27	患者接遇	総まとめロールプレイング
	28	期末試験	期末試験
	29		
	30		
31			
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない			

授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究		指導担当者名	佐久間 春奈
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	54時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	卒業に向け、2年間(1年間)学んだ内容をパワーポイントでまとめ最終的に発表、卒業年次生で共有することを目標とする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	無し			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	17	発表内容検討	自分が発表したいことを検討する	
	18	自己分析	専門学校で学んだことを書き出す	
	19	自己分析	専門学校で学んだことを書き出す	
	20	自己分析	専門学校で学んだことを書き出す	
	21	PP作成	パワーポイントを使用し発表内容をまとめる	
	22	PP作成	パワーポイントを使用し発表内容をまとめる	
	23	PP作成	パワーポイントを使用し発表内容をまとめる	
	24	PP作成	パワーポイントを使用し発表内容をまとめる	
	25	PP作成	パワーポイントを使用し発表内容をまとめる	
	26	PP作成	パワーポイントを使用し発表内容をまとめる	
	27	PP作成、発表原稿作成	PP作成、発表原稿作成	
	28	PP作成、発表原稿作成	PP作成、発表原稿作成	
	29	発表練習	発表練習	
	30	発表練習	発表練習	
31	期末テスト(発表)	期末テスト(発表)		
32	振り返り	振り返り		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない				

授業計画(シラバス)

科目名	プレゼンテーション実習 (PowerPoint2016)		指導担当者名	太田 光則
実務経験				実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	調剤ビジネス科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:○	実技:
時間数	42時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	マイクロソフトPowerPoint操作方法及び、プレゼンテーション技法を学び、ビジネスユースにあったプレゼンテーションを自ら実践出来るようにするため、スライド作成能力とプレゼン実践力を身に付ける。また、2月に行われる、「PowerPoint技能認定試験初級」の取得を目指す。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	PowerPoint 2016クイックマスター基本編、PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験問題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 後期	17	プレゼンテーション概要	プレゼンテーションの必要性	テキスト P1～P24
	18	パワーポイントの基礎知識	パワーポイントの画面構成・操作	テキスト P25～P42
	19	プレゼンテーション作成	スライドの作成方法 保存方法 他	テキスト P43～P54
	20	プレゼンテーションの構成とデザイン 文字の編	スライドの構成 文字表現	テキスト P56～P84
	21	オブジェクトの作成	図形・表・クリップアートの利用と作成	テキスト P85～P117
	22	自己紹介 スライド作成実習	【自分オリジナル】自己紹介スライド作成	テキスト P118
	23	表示効果とハイパーリンク	画面切り替え効果とアニメーション	テキスト P119～P136
	24	スライドショーの実行	スライドショーの実行操作・自動実行	テキスト P137～P152
	25	自分の好きな場所 までの地図をスライドで作成	【自分オリジナル】地図スライド作成	
	26	テーマカスタマイズ スマートアート	テーマのカスタマイズ	テキスト P153～P182
	27	グラフの追加・図の加工 プレゼン動作設定	スライドへ図の追加 セクション設定等	テキスト P183～P214
	28	期末テスト		
	29			
	30			
31				
32				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない				